

共に生きる

東日本大震災現地支援ニュース No.18
2013年8月28日 大会執事活動委員会

*のぞみセンター活動報告 2013年7月、8月

のぞみセンタースタッフ 加藤恵美

仮設住宅での活動

7月17日はナガワ仮設住宅にて、夕涼み会を行いました。焼き鳥など100人分をお出ししました。普段はお会いできない日中お仕事をされている方もご家族で来てくださり、特に男性の方と顔をあわせることができる感謝なひと時となりました。



野外活動

7月、8月はボランティアさんのおかげで、地域の野外活動をたくさん行うことができました。以前伺っていたパブリカ農園さん、いちご農家さんにも再びお手伝いに行けて感謝です。津波被害の後に空き地となっている場所の草刈りは20軒程行えました。特に、キリスト教関係者の出入りを禁止していた仮設の元会長さんのお宅に伺い、草刈りを行うことができたことは本当に主の導きでした。頂いた数多くのボランティアさんにも本当に感謝です。

夏休み子どもイベント

7月8月はなんとといっても子どもたちの夏休みです！

7月26、27日（金土）のぞみわくわくキャンプ



宮城県柴田町太陽の村へ、センター周辺や、仮設に住んでいる子どもたちとおでかけしました。子ども18人大人18人！「海と空造られた主」の賛美を覚えたり、神様の話も聞きました！

8月7日（水）東田仮設サッカー大会

いよいよ梅雨明けして暑くなった日、たくさんのボランティアさんと仮設住宅へサッカーをしにでかけました。初めて会う子どもたちがいっぱい！そしてこの子どもたちが翌日のこどもお楽しみ会にきてくれたのです。



8月8日（木）こどもお楽しみ会



午後2時からなんと夜の10時まで楽しいことづくしのお楽しみ会をしました。キャンプに来てくれた子どもたちと再び繋がれて感謝。ゲストで腹話術師の方も来てくださいました。この他にも、スポーツ大会、子どものパソコン教室やコンサート、そして突然の地元ラジオ局のセンター訪問がありました。ラジオの

生放送のインタビューでは子どもたちが「のぞみセンター毎日来てるよ！楽しいよ！」って答えてくれました。この夏の毎日が神様に守られたこと、たくさんのボランティアさんが送られたこと、本当に感謝です。

< 祈禱課題 >

- ・夏休みに仲良くなった子どもたちに福音の種が蒔かれるように。
- ・センターのまわりにお住まいの未亡人のかたの慰めのために。
- ・センターにもうひとりフルタイムのスタッフ（できれば男性かご夫妻）が与えられるように。

のぞみセンター草刈りボランティアさん募集！

秋空高い宮城県で、稲穂実る山元町で、草刈りしませんか。震災から3年目、まだまだあなたの手が必要です！9月10日から13日の間で急遽募集します。

参加ご希望は 0223-35-6901 nozomicentre@gmail.com まで！

* 陸前高田活動報告

1. 初参加者橋元長老からのご感想

米崎仮設の菅原会長さんの次のようなコメントに感激し、思わず涙がこみ上げてきました。「いろいろな団体がこの仮設住宅に来て、イベントを開いている。しかし、住民のみんなが目を輝かせて楽しそうに参加しているイベントは数えるくらいしかない。見てください。あなたがたのイベントには、こんなにたくさんの人たちが先を争うように参加してきます。みんな楽しみに待っているのです。」

「わたしたちは、震災以来のこの2年間、いろいろな団体を見てきました。だから、一目見て、分かるんです。その団体が、本当に利益を求めずにわたしたちのことを思って来ている団体なのか。先日も、ある宗教団体が訪ねてきました。わたしは立ち話をしながら、その訪問目的を吟味しました。下心が見え見えだったので、お引取り願いました。でもあなたがたは違います。自分たちの利益ではなく、本当にわたしたちのためを思ってきてくれていることが。本当の宗教者というのは、こういう人たちのことをいうんだなど、思っています。」

私は驚きました。「チーム陸前高田」がここまで、信頼関係を築き、被災者の人たちの懐の中にまで受け入れられているのだなということに。-----

（仙台教会の橋元研長老：陸前高田初参加の感想文から一部抜粋）

2. 6月17日の訪問

- ・米崎保育園を初めて訪問しました。



矢作町の5つの仮設住宅に物資をお届けして、米崎の仮設に向う車の右手に保育園が目にとまりました。今日、車には子供用の衣服が積んであります。私たちは仮設住宅を訪問しており、比較的高齢者との交わりが中心です。私たちは保育園の事務所を訪れ、栄光教会というキリスト教の教会の者であること、仙台からこの陸前高田にボランティアとして来ている事、そして今、車に子供用の衣類、タオル等持参している事をお伝えし、よろしければ、こちらの保育園でお使いいただけるかどうか、をお伺いいたしました。坂下園長さんは快く、私たちの願いを聞き入れてくださいました。仮設住宅ばかりではなく、保育園ともつながりが出来そうに思いました。

- ・矢作町にある2つの仮設住宅、そして小学校仮設

住民の方々との交わりが出来る様になった仮設は、**中学校仮設**と**片地家仮設**です。私たちが物資をお届けに訪問しますと、料理を作り、パンを作り、漬物を並べテーブルを用意して、私

たちの訪問を待っていただきます。片地家仮設には毎回、夕方5時以降の訪問になってしまいます。片地家仮設を最後に訪問するようになったのは、時間にあまり縛られないためです。1時間、1時間30分の交代では満足できず、「これからはこの集会場にお泊まりください」と言われてしまいました。

小学校仮設の河野としえさんと金玉基さんとの繋がりが出来てきました。昼食の場として小学校仮設の集会所を借ることが出来るようになり、私たちの食事の場に河野としえさん・鈴木信子さんが加わってくださるようになりました。

河野としえさんは和裁の専門家でした。仲間の方々と共にパッチワークで作った30枚の作品を一枚に貼り付けた、大きなタペストリー（壁掛け）を自宅から持参し、私たちに見せてくださいました。見事な作品です。この作品はオークションにかけるためにアメリカに渡るとのことでした。さあ、いくらで値段が付くのでしょうか。

今回の訪問の上にも神様は大きな恵みを注いでくださいました。陸前高田の人々と深く、親しい交わりができましたことを感謝し、すべてのことを導いてくださる神様に感謝しつつ・・・

2013年8月15日

チーム陸前高田代表 李 根培宣教師



名古屋岩の上传道所東日本大震災ディアコニア支援室活動報告

第10回 被災地ディアコニア 8月4日～6日

奉仕者：相馬牧師、岡本真理室長、岡本委員、三輪委員、相馬姉、須之内氏（一般）、竹内氏、野田氏、川田氏、新田氏（愛知県立芸術大学学生）、石川長老（ソルカ^oナトチャ^oル）。

計11名

（※日本同盟キリスト教団後藤一子牧師、葛西牧師）

活動内容：福島県相馬市・北飯渕仮設住宅個別訪問（飲料水配布）とコンサート

包丁研ぎとスーパーボールすくい

：福島県相馬市・柚木仮設住宅にて個別訪問（飲料水配布）とコンサート
及びメッセージ 包丁研ぎとスーパーボールすくい

：亙理旧館仮設住宅にて個別訪問とコンサート及びメッセージ
包丁研ぎとスーパーボールすくい

私どもは、すでに2年余り、山元町の二つの仮設住宅の皆さまとの現地での交流と教会員のお便りによる交流を継続してまいりました。今、山元町には「のぞみセンター」が設置され、山元町の被災者に広く深く関わりと支援を継続しておられます。二つの仮設住宅への直接訪問は、基本的にセンターにおゆだねする方向に舵を切りつつあります。なお亙理旧館仮設住宅の入居者の皆さまとは、これまで通りの関わりを継続する必要を覚えさせられています。

さて、炊き出しの出会いから始まった亙理郡山元町は、宮城県南端に位置しています。車で十数分走らせれば、すぐ福島県新地町です。山元町に何度も伺いながら、隣接する福島県北端、新地町、相馬市、南相馬市の被災者の方々のことが気になっていました。しかし、今春、仙台での会議を利用し、被災直後より、当地区でよきディアコニアを展開しておられた日本同盟キリスト教団の後藤一子牧師と相馬キリスト教会葛西清蔵牧師とお会いしました。そして、第10回ディアコニアとして、支援を申し出たところ、ご快諾いただくことが許されました。

被災地福島。それは、これまでの仮設の状況とは、はっきり異なる困窮状況が広がっていま

した。今回、総量1トンほどのミネラルウォーターを配布いたしました。今なお、ふつうのお水が、まさに生命に必須の水としての重みがありました。「支援過疎地」と言う悲しい言葉を伺いました。なるほど、第一には線量が高いことが原因です。さらに、距離の問題もあります。これまでの仮設集会室では、集会予告のホワイトボードには少なくとも一週間に一回は、なにかの集いで埋められていました。今回、伺った二つの仮設集会室の「ホワイトボード」は、白いままなのです。様々な宗教団体のチラシ、とりわけエホバの証人のものが目につきました。さらに、車に設置した拡声器で「神の裁きと悔い改め」を触れまわるキリスト教団体の活動とも鉢合わせになりました。

日本同盟キリスト教団の後藤一子牧師は、ほとんどお一人でコツコツと仮設の皆さまへの訪問を繰り返しておられました。被災地支援は、教派を越えて展開しなければ維持できない現実があります。神は私どもを、津波のみならず原発被災者へのディアコニアの道へと導かれていることを確信しています。

確かに、私どもの被災地ディアコニアは、名古屋岩の上传道所の会員が中心です。しかし、ミッション協議会、中部中会ディアコニア支援委員会の支援、さらに他教会会員また未信者の方々の具体的な協力なしには成り立ちません。今後とも皆さまの尊いお祈りの内にお覚え下さると共に、機会があれば、共に奉仕にあずかることが許されますなら幸いです。

「その後、主はほかに72人を任命し、ご自分が行くつもりすべての町や村に二人ずつ先に遣わされた。」(ルカによる福音書第10章1節) Soli Deo Gloria!

＜今月の御言葉＞

「さて、あなたはこの三人の中で、だれが追いはぎに襲われた人の隣人になったと思うか。」
(ルカによる福音書 10 章 36 節)

冒頭に掲げた言葉は、有名な「善きサマリア人のたとえ話」を結ぶにあたって、イエス・キリストが律法学者にお尋ねになった問いです。

そもそも、このたとえ話をキリストがお語りになったきっかけは、律法学者の「では、わたしの隣人とはだれですか」という問いに答えるためでした。律法学者にとって「隣人を自分のように愛しなさい」という掟を守るためには、「隣人とは誰か」という定義が必要だったからです。しかし、「隣人とは誰か」と問うことは、隣人から排除される人を選別することにもつながっています。

イエス・キリストが問いかけていらっしゃるのとは、「誰がわたしの隣人なのか」ではなく、「わたしは誰かの隣人となって、愛をもって生きようとしているか」という生きる姿勢です。もちろん、人間は神ではないので、すべての人を愛することも、すべての人に関心を持つこともできません。できることは限られています。けれども、そうだとすると、イエス・キリストはわたしたちに、「あなたは誰かの隣人になっているか」と問い続けていらっしゃいます。

ところで、イエス・キリストは別のたとえ話で「わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである」とおっしゃいました(マタイ 25:40)。そこで、「この最も小さい者の一人」が誰を指すのか、わたしたちはすぐに知りたがろうとします。しかし、「誰が最も小さな者か」と問うことは、「誰がわたしの隣人か」と問うた律法学者の問いと同じくらい、愚かしい問いです。

イエス・キリストは、最も小さな者ではないからという理由で、誰かが飲み水を与えられなかったり、飢えていても放置されることを望んではいません。「お前たちのために用意されている国を受け継ぎなさい」と言われた人たちは、報いを得ようとして慈善の業をしたわけではなく、慈善を施した相手が、「最も小さな者の一人」と知っていてそうしたわけでもありません。

わたしたちの働きが、ただ誰かの隣人でありたいという思いから出て、そのことがキリストへの愛へと繋がるものでありたいと、心からそう願います。わたしたちがキリストに愛されているからです。